

2 業務実績

2・1 微生物科学部

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行し、新型コロナウイルス検査数は令和4年度と比較して激減した。この他、それ以外の各感染症の検査、食中毒・有症苦情の原因微生物検査、食品の微生物規格基準検査、ツツガムシ病・日本紅斑熱患者の血清学的検査、健康福祉部職員のB型肝炎（HBs抗原・抗体）検査等を行った。また、国庫委託事業として、感染症流行予測調査事業（日本脳炎の感染源調査）、感染症発生動向調査事業等を行った。これらの試験・検査業務に加え、調査研究を行った。

主な試験検査及び調査研究の概要は次のとおりである。なお、業務実績を別表に示す。

2・1・1 試験検査

1) 感染症検査

感染症発生届に基づき、保健所等から依頼された検体（細菌159検体、ウイルス・リケッチア及びその他107検体）について、検査を行った。検出された病原体は腸管出血性大腸菌、日本紅斑熱リケッチア、ツツガムシ病リケッチア、SFTSV等であった。

2) 食中毒・有症苦情検査

食中毒・有症苦情関連の77検体について、原因微生物の検索及び同定検査を行った。その結果、原因微生物としてノロウイルス、カンピロバクター等が検出された。

3) 食品中の微生物検査

魚肉練り製品等57検体の微生物規格検査等を行った。

4) 新型コロナウイルス検査

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類感染症に移行したこともあり、保健所から通常検査のために搬入された検体は23検体と、令和4年度の26,040検体から大きく減少した。ゲノム解析832検体を実施した。

5) その他微生物検査

健康福祉部職員のうち希望のあった88名の血清についてHBs抗原及びHBs抗体検査を行った。

6) 感染症流行予測調査

日本脳炎の感染源調査を、6月下旬～8月下旬にかけて、生後4～6ヶ月のブタ92頭についてJEVに対するHI抗体及び2-ME感受性抗体を測定した。詳しくは3・2資料の項に掲載した。

7) 感染症発生動向調査事業に伴う検査

令和5年4月から令和6年3月までに、検査定点医療機関等において採取された105検体について、A549、RD-A、VeroE6等による組織培養法、遺伝子学的検査法等を用いて病原体の検査を行った。詳しくは3・2資料の項に掲載した。

2・1・2 調査研究

動物由来感染症に関する研究として、令和5年度から重症熱性血小板減少症候群ウイルス等のダニ媒介感染症の予防に資するための研究を、また同じく令和5年度より下水中の薬剤耐性菌に係る調査研究を実施している。

微生物科学部業務実績表

分 類	事 業 名	業 務	令和 5 年度		令和 4 年度	
			件 数	延項目数	件 数	延項目数
行政検査	(1) 感染症病原体検査	細菌	159	223	264	489
		ウイルス・リケッチア・その他	107	270	86	207
	(2) 食中毒・有症苦情検査	原因物質検査	77	1246	217	1085
	(3) 食品中の微生物検査	からし蓮根・馬刺・魚肉練り製品等	35	35	19	19
		野生鳥獣肉等	26	26	13	13
		生カキ・海水	8	8	8	8
	(4) 新型コロナウイルス検査	通常検査	23	23	26,040	26,040
		ゲノム解析	832	832	1,210	1,210
	(5) その他の微生物検査（B型肝炎検査等）		88	88	76	76
	合 計		1355	2751	27933	29147
国庫委託調査	(6) 感染症流行予測調査（感染源）		92	92	90	90
	(7) 感染症発生動向調査		105	1050	116	1160
	合 計		197	1142	206	1250
調査研究	動物由来感染症に関する調査研究		634	1134	0	0
	薬剤耐性細菌に係る調査研究		129	258	231	462
	その他		0	0	0	0
	合 計		763	1392	231	462
総 計			2315	5285	28370	30859